

共同利用施設の再編集約・合理化に関する事例【園芸作物、九州農政局】

佐賀県 佐賀県農業協同組合（新基本計画実装・農業構造転換支援事業：R7～R9）

- 既存6施設のたまねぎ選果場を再編し、選果機能を2施設に集約してメイン施設にAI選果機を導入。残りの施設は、集荷・一次乾燥施設として乾燥・荷受け設備を充実させ、機能・役割を分担。
- 施設再編を契機として大型鉄製コンテナを活用した収穫作業の機械化も推進。生産者は根葉切り作業や選果作業が不要となり負担軽減・規模拡大が可能となる他、品質の平準化と有利販売による販売額の向上が見込まれる。

現状・課題並びに再編集約等の内容

【産地の現状・課題】

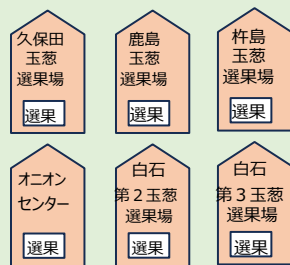
- 現在のたまねぎ選果場（県内6カ所）は、老朽化に伴う毎年のメンテナンス・修繕費負担（年間2,000万円程度）や、交換部品の製造中止などにより選果場の運営に支障をきたしている。
- 生産者の高齢化が進んでいることから圃場での選果・調整作業等に支障が出ており、調整作業の軽労化が可能な大型鉄製コンテナでの根葉付き集荷の要望が大きい。

【再編集約の内容】

- 管内に6カ所ある選果場を再編し、1施設をメイン集出荷貯蔵施設として集約。1施設を集荷～選果を行うサブ施設、4施設を集荷・一次乾燥施設として機能・役割を分担し、施設の効率的な活用を図る。

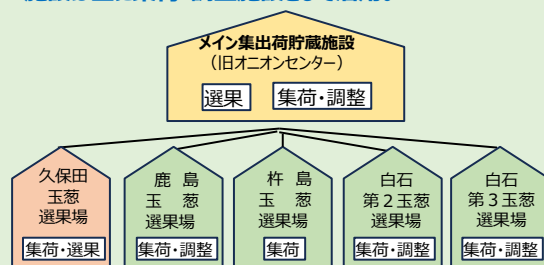
現状（事業前）

・JA管内の6施設でそれぞれ選果しているが老朽化等により運営に支障



計画

・メイン集出荷貯蔵施設に集約して選果・集出荷業務を行い、ピーク時は、サブ施設(久保田)も稼働。他の既存施設は主に集荷・調整施設として活用。



再編集約・合理化等で期待される効果

- メイン施設にスマート技術であるAI選果機を導入することにより、生産者は圃場での選果作業（秀・優の分別）が不要となり生産者の負担が軽減される。
- 再編集約し、乾燥・荷受け設備を充実させることで、従来生産者が圃場で行っている根葉切り作業が省略でき、圃場から選果場への直送体制とすることで生産者の負担軽減（作業時間34%の減）が図られ、規模拡大につながる。
- AI選果機導入により選果作業員は現行の60人から30人へ削減できることから約50%の人件費削減を見込んでいる。
- 販売を一元化することで、品質の平準化と有利販売による販売額の向上が見込まれる。



根葉付きでの大型鉄製コンテナへの拾上げ



大型鉄製コンテナでの貯蔵

他産地へのメッセージ

- 令和2年から品質向上対策のための施設整備等について施設利用者と協議を行い、令和5年度から各地区部会代表による連絡協議会を立上げ、再編に係る本格的な話し合いを行ってきた。本事業を契機として、施設再編についての協議を加速化することができた。合意形成には時間を要するため、日頃から関係者がじっくりと協議を行うことが重要だと思う。